

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年5月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676100235
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	グループホーム隼人
所在地	鹿児島県霧島市隼人町松永3630-3 (電話) 0995-64-2520
自己評価作成日	令和5年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム隼人は今年の8月で21年目を迎えます。これからも新たな気持ちで頑張っていきます。これも全てご理解・ご協力頂けてるご家族様と元気なご利用者様と日々ご利用様の為に頑張ってくれている職員のおかげだと思っております。現在は掘り直した温泉で毎日かけ流しの温泉の提供をしております。緑豊かな自然に囲まれてご利用者様、日々ゆっくり過ごされてます。近所にはお花を植えてらっしゃる所もあり、いろいろなお花や野菜があるので散歩にてよらせてもらっています。活動に限りがありますので食事にはもっと力を入れ、美味しい食事や各々の嗜好品の提供で喜んでいただいております。新型コロナウイルスの影響にて地域密着型としての地域との関りが殆どなくなってしまいご家族を交えての家族会や地域の方を交えての地域交流会等が開催できていなかったが、5月から5類に登録されるということで少しずつ開催していくこととなります。新型コロナウイルスの感染予防にも配慮しつつ、地域の方々との関わりに力をいれ、「地域住民の相談窓口として、介護、なんでも相談所」としてもまた頑張りたいと思っております。再スタートして今後も頑張っていこうと思っております。

ホームは周囲を温泉地帯に囲まれた静かで緑豊かな地域に、特別養護老人ホーム・デイサービス事業所・訪問介護事業所・居宅介護支援事業所・ケアハウス・高齢者給食宅配サービス等と共に、福祉事業を展開する法人の総合福祉施設のグループホームとして建てられている。利用者の3分の2は車椅子で生活しており、特殊浴槽を利用して温泉浴を楽しむこともでき、コロナ禍でも利用者が楽しく生活できることを重視したケアに取り組んでいる。

利用者が笑顔を絶やさず、家族や地域と触れ合いながら本人らしく過ごせることを目指した理念と共に、理事長訓示・法人のスローガン「一心」・ホームのスローガン「温厚篤実」・正範語録、経営理念、職員行動指針等を掲示し、年度目標や毎月の目標を決めて日々のケアに臨んでいる。委員会組織としては感染予防、衛生、安全対策、身体拘束、権利擁護があり、2~3月毎に会議を開催して意見交換や情報交換を行い、サービスの向上に繋げている。

ホーム周辺は過疎化が進み、別荘地となっていること、コロナ禍で自粛せざるを得ない状況等ではあるが、近隣の散歩時の挨拶、地域の草刈り、地域交流会、夏祭り、学生ボランティア受入れ、なんでも相談所の開設、運営推進会議や避難訓練への参加や協力を貰ったり、野菜の差し入れを頂く等、地域との関わりを大切に支援に取り組んでいるが、今後は自粛していたことに対しても少しずつ再開できるように支援していきたいと考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は職員がよく目につくところに張り出しており共有理解できるようにしている	開設当初からの理念をホールに掲示し、職員は常に確認しながら日々のケアに臨んでいる。法人のスローガン「一心」とホームのスローガン「温厚篤実」も一緒に掲示し、毎月のミーティングで目標を立てて実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスなどの影響により実施できていません	コロナ禍で自粛していることも多いが、近隣の散歩時の挨拶、地域の3月毎の草刈り、地域交流会、夏祭り、学生ボランティア受入れ、なんでも相談所の開設等、地域との交流に努めている。運営推進会議や避難訓練への参加や協力を貰ったり、野菜の差し入れを頂くなど、地域との関わりを大切にしたい支援に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナウイルスなどの影響により実施できていません		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルスの影響にて開催出来ていません、資料のみ配布となっております。	会議は家族代表・行政職員・地域住民・民生委員・施設長等が出席して2か月毎に開催していたが、コロナ禍のため書面での開催に変更している。参加予定者には資料を配布して意見を貰い、現状・活動報告・行事・今後の活動等についてテーマを決めて話し合い、サービスの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	感染対策をしっかりと行いながら報告、連絡等スムーズに行えている	市の担当者とは運営推進会議をはじめ、生活保護受給者の処遇に関することや日常生活自立支援事業の利用等も含めて電話・メール・窓口等で相談を行い、助言・指導を頂いて日頃から連携を図っている。研修については、市を通してオンライン研修の案内が多く、職員は勤務時間の中で参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会が中心となり身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームにおける「身体拘束委員会」を2か月毎に開催し、担当職員が法人における3か月毎の「身体拘束適正化委員会」に出席して、ミーティング等で全職員への周知を図っている。身体拘束廃止に関する指針を作成し、チェックシートで確認したり研修動画を受講するなど、利用者の気持ちを尊重した拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3カ月に1回メンバーでミーティングを行いその際に勉強会や職員同士の意見交換をしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	3カ月に1回ミーティングを行いその際に勉強会を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結、解約又は改善等の説明対応は管理者が行っている、文章を読みながら丁寧に説明するようにしている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>相談箱を玄関に設置しており直接話づらいいことを相談できる体制を取っている</p>	<p>利用者の思いは日頃の会話・表情・仕草等から把握に努め、家族の思いは電話・面会・ライン等により把握できるが、写真を添付した毎月のお便りに生活状況報告書を同封し、意見が貰えるように工夫している。特に遠方の家族に対しては、メールで写真を送ることが多く、家族との信頼関係を大切にしたい支援に取り組んでいる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回のミーティングやLINEのグループを作っており意見や提案を行えるようにしている</p>	<p>管理者は日頃から職員の言動に気を配り、グループLINE等を活用して伝達・連絡や意見等が得られるような関係づくりに努めている。職員とは人事考課のための年1回の面談の他に、必要時にはいつでも話せる体制を整備し、微細な勤務時間の調整や変更、有給休暇・リフレッシュ休暇・希望休等の取得にも積極的に取り組んでいる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回人事考課と自己評価を行っており希望休、有休、就業時間などは業務に支障がない限りは対応している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験年齢や得手不得手に応じて必要な外部研修を受ける機会がある（法人としてメディパスアカデミーという研修動画を受けられるように取り組んでいます。）</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナの影響で研修などによる交流は行えていないがライフサポートワーカーを通じての交流は行えている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や入居に至るまでの経緯など把握したうえで思いに寄り添いながら職員同士共有し関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴して、思いや不安などを受け止め関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり、環境の変化による不安や不憫さを考慮し可能な限り事業所で意向に添えるサービスを行い、難しい場合は家族を交え対応できるサービスを検討する		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人主体に努め、ご自分ではできないことはしていただき入居者様と同じ目線で気遣い尊重しながら関わるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初めに1回ご家族へお手紙を出している。事業所の各ユニットの携帯で連絡をとれるようにしており関係づくりに努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室などがあればご家族と段取りを決め出かける機会を作ったりしている	家族や友人との面会は、霧島市と鹿児島市在住の方に限り予約制で15分間、窓越しに行われている。墓参り・買い物・外食・電話や手紙の取り次ぎ・馴染みの美容室・花見等の外出など、可能な限り継続した関係が途切れないように支援している。家族とは病院受診等の機会に外食してからホームへ戻ることも可能となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握し、利用者同士トラブルになる可能性がある方は席を離したりスタッフが間に入れるように交流している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後などは時折連絡行い相談に関われるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や本人の希望や以降は傾聴しながら把握に努めている。	本人の思いや意向は、日頃の会話等から把握に努めているが、うまく伝えられない場合は、表情や仕草等から推測したり、家族から聴取している。職員間ではグループLINEを通して共有し、家族の思いも支えながら連携して支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報以外に後から得られた情報があれば記録や職員同士での共有に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送り、報告により全職員でその日の変化の把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、意思の意見を踏まえ、電話等でケア会議を行い介護計画を計画している	利用者毎の担当職員が日頃の利用者の様子を把握しており、家族の面会に併せて職員・ケアマネジャーが出席してサービス担当者会議を開催している。主治医からは連絡票で意見や指示を貰い、2か月毎にモニタリング、3か月毎に見直しを行なって、利用者主体の介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の入居者様のケース記録は詳細に残している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人に必要なニーズで今までにない事であれば、ご本人や家族と相談しながら、事業所で可能な限り対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人1人の暮らし方で地域資源を把握して支援することは実施しできずにいるが面会に来られる友人や知人、親戚は把握している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望を伺い特にない場合は地域のかかりつけの内科にお願いしており月1回～2回の往診に来ていただいている	本人や家族が希望する精神科やリハビリ目的のかかりつけ医の受診も支援しており、専門診療科の受診には家族や職員が付き添っている。協力医療機関から月2回の訪問診療、協力歯科医療機関から月3回の訪問歯科診療、訪問看護・薬剤師による薬の配布等が行われ、ホームには看護師が3人雇用されている。協力医療機関とは24時間医療連携体制が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>入居者様の状態の変化に応じ主治医上申報告にて指示を受けている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入所者様の状態に応じて主治医への連絡及び御家族への連絡など早期に対応していく</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>状態に応じ主治医との連絡、御家族への病状説明など細かく報告し治療方針など決定する</p>	<p>「看取りに関する指針」と手引きを整備し、事前意思確認書と共に契約時に説明し、同意を得ている。看取りの事例もあり、令和5年3月からは看取り介護加算を算定できるようになった。訪問看護を中心に医師の往診に併せて確認して話し合い、可能な限り希望に沿った支援となるように取り組んでいる。職員の研修については、今後充実させていく予定である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師に24時間連絡する様、対応している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回日中と夜間を想定した訓練を行っている。そのうち1回は消防署の職員合同で行っている</p>	<p>消防署の立ち会い1回を含めて年2回、昼夜想定での避難訓練を実施しており、訓練とは別に消防による心肺蘇生法訓練やAEDの使い方についての学習会も行われている。隣家の方や地域住民も連絡網に含めた体制が整備されている。備蓄は水・米・缶詰・レトルト食品等を準備して非常食研修会を受講しており、カセットコンロ・ラジオ・懐中電灯等も備えて、災害に対する認識の向上を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけで指示的な対応になることがあるためミーティングのときや職員同士声掛けを行い気付きを得る機会を作っている	個人情報に対する基本方針や利用目的を明文化して同意を得ている。接遇やプライバシーに関する研修を実施し、利用者の写真を撮影・掲載することへの同意も得ている。入浴・排泄・居室への入室時のノック等には十分配慮し、不適切な言葉遣いとならないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い通りに言葉が出ない方などは筆談をしたりyes no で答えるような工夫をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の意向に沿わないことや、別に希望があった場合は臨機応変に対応し、その日できないことは日程調整し支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴の際や外出の際は職員と一緒に服を選んでいただいている（外出がほとんど出来ておりません）		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使ったり、何が食べたいかお聞きし献立に取り入れている	年1回の嗜好調査を行い、誕生会では希望の食べ物を提供するなど、食への楽しみに繋げられるように工夫している。調理担当職員が献立を作り、一つのユニットが中心となって調理を行っている。利用者はできることを一緒に手伝い、東屋では近日中にくまきを作る予定もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量、毎日記録し変化時主治医上申及びスタッフにて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの施行。異常時歯科受診の検討する		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄の状態観察にてトイレ誘導、パット交換など対応する	利用者毎の排泄パターンを把握し、さりげなく工夫して誘導することで、プライバシーや自尊心等に配慮しながら日中はトイレでの排泄を支援している。便秘気味の利用者には牛乳の摂取を促したり、体操で体を動かすなど、改善に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時の内服処方定期での服薬中の方も状態に応じて服用している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は曜日を決めて希望があれば要望に沿った曜日や異性の変更など臨機応変に対応している	週3回の温泉浴を基本としており、利用者の状態や意向に沿って柔軟に対応できる体制となっている。異性介助も可能で、入浴剤は使用せず、石鹸等は共用であるが好みの物を使用することもできる。ゆず湯で季節を感じたり、無理強いすることなく入浴が楽しめるような支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調整を行ったりフロア内に数メートルごとに椅子などを設置している。昼で休まれる方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容をしっかりと把握したうえで支援している職員は限られているためお薬情報は都度確認できるファイルを使用している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理にならない範囲で午前と午後でレクレーションを行い希望があればそれに添った内容を実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの影響で外に出られる機会が少ないため移動販売に来ていただき施設内で買い物を楽しめる取り組みをしている	コロナ禍の時は外出を自粛したり、人出の少ない場所へ出かけていた。現在は近隣の散歩、ホームの菜園の草取り・管理・収穫、ドライブでの花見、移動販売車で買い物など、できるだけ工夫して外出の機会を作り、リフレッシュを図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売が来られた際に使っていいお金をご家族と相談しているのでその際はご本人に買い物をしていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	月一度の手紙のやり取り以外に各ユニットに携帯を準備しており気軽に交流できる取り組みをしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは常に清潔にしラジカセやテレビを置かれたり、季節の花を置いたりレクリエーションで作られた作品などを貼りだしたりしている。	広くて明るいホールにはテーブル・イス・テレビ等が居心地よく過ごせるように工夫して配置されている。季節を感じられるよう生花を活けたり、カレンダー・時計・行事に合わせた作品等を飾り、利用者は職員と一緒に箒やモップがけ等の清掃を行い、空気清浄機や加湿器も設置し、窓は常に開けて換気に心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置など配慮して自分のお気に入りの場所で過ごしていただいている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前の部屋で使っておられたものなどは入居の際に必要であれば持ってきていただき落ち着いた居室づくりに努めている	腰高窓で全室洋室の居室入口に名札はなく、部屋番号を付けてある。ベッド・クローゼット・床頭台が備えられ、利用者の馴染みの写真・テレビ・タンス・イス・仏壇・遺影等を自由に持ち込み、家庭同様にくつろいで過ごすことができるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何の部屋かなどすぐにわかるように扉に大きく文字を貼ったり、数メートル置きに休憩できる椅子を置いたりし対応している		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない